

建築学分野		建築設計演習I					
学年	第2学年	担当教員名	佐藤彰治, 西澤岳夫				
単位数・期間		5単位	通年	週あたりの開講回数	2回	必修	履修単位
授業の目標と概要		<p>建築空間を具体的に表現する基礎能力を養う。本授業は演習を主体とし、前期は既製図面のトレース（模写）作業が中心となる。 この中で製図器具の使用法、建築設計図面の種類及び知識を習得する。 後期は、主に自らのアイディアのもと住宅設計を行い、適切な図面表現のもと作図を行い、関連して住宅模型の作成能力を習得する。</p>					
		釧路高専目標	D:100%	JABEE目標			
履修上の注意(準備する用具・前提となる知識等)		<p>半期で4テーマ程度の課題を与え、各テーマ5～8回程度で完成させる。毎回、製図用具一式を持参する。 後期では各自で木造住宅の設計課題に取り組むので、前期でトレースをした課題にかかわるテキストの第1章「木構造の設計製図」を十分に復習しておくこと。 zenkiha</p>					
到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 図面の種類を覚え、基本的製図法が理解できる。 2. 縮尺（スケール）の概念を理解できる。 3. 丁寧に正確な作図作業ができる。 4. 2階建て木造住宅の計画を立て、適切な図面表現をすることができる。 5. 丁寧に正確な住宅模型をつくることことができる。 6. 適切な描画と文章でプレゼンテーションポスターを作成することができる。 					
成績評価方法		<p>合否判定は、全ての課題が提出されており、かつ最終成績≥ 60点を合格とする。 最終成績は各演習課題の評点の平均値（90%）、授業態度（10%）。 前期各課題の評点内訳は、寸法の正確さ30%+丁寧さ40%+線の質・濃淡20%+提出期限10%。 後期課題1、2の評点内訳は、書式・面積表・線種の使い分け・図面の丁寧さ40%+図面表現50%+提出期限10%。課題3は、模型の作り込み具合40%+正確さ・丁寧さ60%+提出期限10%。 課題4は描画内容40%+丁寧さ30%+文章表現力30%。</p>					
テキスト・参考書		<p>教科書－『建築設計製図』（検定教科書） 参考書－『建築設計資料集成』（丸善） 『木造住宅の断面設計』（彰国社） 『住環境の計画2 住宅を計画する』（彰国社） 『新建築 住宅特集』（新建築社）</p>					
メッセージ		<p>授業時間内に課題を描き上げる努力をしてほしい。すなわち、丁寧さ、正確さと同時に効率よく素早く作業することも学んでほしい。後期の授業では前期で学んだ基礎知識を前提としているので十分に復習しておくこと。</p>					
前関連科目				後関連科目		建築設計演習II	

授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
1. ガイダンス、設計の位置付けと基本 (1回) 2. 製図器具の使用法、図面の種類等の解説 (1回) 3. 線引きおよび文字の練習 (3回) 4. 投影法および立体の作図 (2回) 5. 簡単な透視図の作成 (3回) 6. 縮尺の解説と演習 (1回) 7. 課題1-方眼紙を使った平面図 (木造住宅S1:100) のトレース (5回)	1. 授業の注意事項及び製図室の使用方法を理解できること 2. 製図器具の使用法、図面の種類、寸法の描き方等が理解できること 3. 正確な水平・垂直線や線の濃さや種類を変えて正確に描くことができること 4. 投影法を理解し、与えられた立体から平面・立面を描くことができること 5. 簡単な透視図法が理解できること 6. 縮尺の考え方が理解できること 7. 平面図の基本的製図法が理解できること
前期中間試験	実施しない
8. 課題2-平面図・配置図 (木造住宅S1:100) のトレース (6回) 9. 課題3-立面図・断面図 (木造住宅S1:100) のトレース (8回)	8. 木造住宅 (平面図・配置図) の基本的製図法が理解できること 9. 木造住宅 (立面図・断面図) の基本的製図法が理解できること
前期期末試験	実施しない
10. ガイダンス (住宅計画の概略) (1回) 11. 課題1 木造住宅のトレース (6回) 12. 課題1 木造住宅の設計1 エスキス (4回) 13. 課題2 木造住宅の設計1 清書 (4回)	10. 住宅に関する基礎知識を理解できること 11. 前期で修得した作図に関する基礎知識を活かし適切な図面表現ができること 12. 住宅に関する基礎知識を活かし、住宅プランの計画を立てることができること 13. 基本的製図法をもとに1/100スケールの図面を完成させることができること
後期中間試験	実施しない
14. 課題2 木造住宅の設計1 清書 (2回) 15. 課題3 模型製作 (8回) 16. 課題4 有名建築のポスター作成 (5回)	14. 基本的製図法をもとに1/100スケールの図面を完成させることができること 15. 設計した住宅の模型をつくり、建築空間に対する認識を深めることができること 16. 有名建築を適切な描画と文章で表現し、ポスターをまとめることができること
後期期末試験	実施しない

到達目標			
1. 図面の種類を覚え、基本的製図法が理解できる。 2. 縮尺 (スケール) の概念が理解できる。 3. 丁寧に正確な作図作業ができる。 4. 2階建て木造住宅の計画を立て、適切な図面表現をすることができる。 5. 丁寧に正確な住宅模型をつくることことができる。 6. 適切な描画と文章を用い、自身が選んだ有名建築のプレゼンテーションポスターを作成することができる。			
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1	図面の種類、基本的製図法のほぼ全てが理解でき、関連課題を期限内に完成することができる。	図面の種類、基本的製図法の最低限必要部分を理解でき、関連課題が完成できる。	図面の種類、基本的製図法の関連課題が完成できない。
評価項目2	縮尺の考え方が十分理解でき、図面から実大空間をイメージすることができる。さらに、関連演習課題を期限内に完成できる。	縮尺の考え方が必要最低限理解でき、関連演習課題が完成できる。	縮尺に関する演習課題が完成できない。
評価項目3	十分に丁寧に正確な作図作業ができ、与えられた複数の演習課題を期限内に完成できる。	必要最低限丁寧に正確な作図作業ができ、与えられた複数の演習課題が完成できる。	与えられた複数の演習課題が完成できない。
評価項目4	創意工夫にとんだ住宅計画のもと、正確かつ丁寧に適切な表現を用いながら図面をまとめることができる。	無理の無い住宅計画を立てることができ、適切な表現で図面をまとめることができる。	住宅計画を立案し、それらを適切な表現で図面にまとめることができない。
評価項目5	図面にもとづきながら、表現豊かで、丁寧に正確な住宅模型をつくることことができる。	図面にもとづいた住宅模型を適切な表現手法で作成することができる。	図面にもとづいた住宅模型を作成することができない。
評価項目6	適切な描画と文章を用い、丁寧に表現力豊かなプレゼンテーションポスターを作ることができる。	適切な描画と文章を用い、自身が選んだ有名建築のプレゼンテーションポスターを作ることができる。	描画と文章を用いて自身が選んだ有名建築のプレゼンテーションポスターを作ることができない。

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				10	90		100
基礎的能力					60		60
専門的能力					30		30
分野横断的能力							